

極東國際軍事裁判所

亞米利加合衆國其他

對

荒木貞夫其他

宣誓供述書

供述者 小幡實

自分機我國ニ行ハルル方式ニ從ヒ先ヅ別紙ノ通り宣誓ヲ爲シタル上
次ノ如ク供述致シマス

一私ハ唯今引湯松ノ世話ヲシテ居リマス、終戦當時ハ陸軍大佐デアリマシタ

ニ私ハ橋本欣五郎大佐ヲ良ク知ツテ居リマス

三私ハ昭和十二年八月、橋本大佐ガ召集セラレテ野戦重砲兵第十三聯隊長トナリマシタ時、其ノ部下ノ大隊長トナリ、爾來、大佐ガ召集解除トナリ修水ヨリ日本ニ歸還サレマシタ昭和十四年四月マデノ間、終始一橋ニ居リマシタ

四昭和十二年十二月十一日頃蘇州西方約三里ノ所ニ到着シマシタ時、橋本大佐ハ柳川軍司令官ヨリ「中國軍ノ大部隊ガ松ニ依ツテ揚子江ヲ溯航中デアルカラ橋本部隊長ハ部下大隊及ビ野砲一大隊歩兵一大隊ヲ合セ指揮シ蕪湖附近ニ於テ該松國ヲ擊沈スベシ」トノ旨ノ命令ヲ受ケ、直チニ蕪湖ニ引返シマシタ、夫レハ午前二時頃ノ事デス

五橋本大佐ノ私ニ對スル命令ハ「小橋小佐ハ野砲兵一大隊ヲ合セ指揮シ蕪湖ノ岸壁ニ陣地ヲ占領シ退却中ノ敵松國ヲ擊沈スベシ」ト云フノデアリマシタ、夫レハ午前五時頃ノ事デス

六橋本大佐ノ命令ニ依リ中村中尉ハ約二千米下流ニ進出シ望遠鏡ニ依リ

敵船團ヲ發見シ次第ハンカチヲ振ルコトトナリ、私ハ右中村中尉ガ
ハンカチヲ振ルノヲ發見シ次第其ノ船團ヲ砲撃スルコトトナリマシ
タ

七 未ダ夜ノ十分明ケ切ラナイ薄暗イ時、中村中尉ガハンカチヲ振リマ
シタノデ、望遠鏡デ見マスト五、六隻ノ船團ガ一隻ヲズ全部五十
米位ノ間隔ニ集結シテ旋泊シテ居リマシタ、私ハ此ノ船團ニ對シ直
チニ砲撃ヲ開始シマシタ、其ノ距離ハ四千米位デアリマシタ

八 其ノ日ハ湯子江有ノ霧ガ特ニ深カツタノデ夜ガ明ケテモ船体ヲ明
確ニ見定メル事ハ困難デアリマシタ、唯、中國兵ヲ滿載シテ居ルコ
トハ判リマシタ

九 二、三十發砲撃シマシタ時、其ノ船團ノ中ノ一隻ガ眞黒ナ煙幕ヲ張
リマシタ、ソシテ煙幕ニ依ル遮蔽ガ完了スルト一隻ノ船ガ我方ニ向
ツテ前進シテ參リマシタ

一〇 我方ニ向ツテ前進シテ來ルノデアリマスカラ降伏シテ來ルモノト思
ヒ、全部ニ對スル砲撃ヲ中止シテ待ツテ居リマシタトコロ、近付ク
ニ從ヒ船体ガ明カトナリ三千米以内ニ進入ツテ漸ク夫レハ中國軍ノ

松デナイ事ガ判リマシタ、始メニ其ノ松ガ中國軍ノ松デナイ事ガ判
ラナカツタノハ巨艦ガ遠イ爲デハナク艦ガ深カツタ爲デアリマス

一ニ砲撃ヲ中止シテ其ノ松ガ岸壁ニ着クノヲ待ツテ居マスト巨艦ニ依リ

英國松船デアルコトト共ニ二發命中シテ居ルコトガ判リマシタ

一ニ艦長、事務長、參謀肩章ヲ附シタ少將外一名ガ上陸シマシテ外交交

渉ヲ始メタイカラ立會ツテ呉レト申出マシタ

一ニ我方カラハ橋本大佐、私、中村中尉及ビ通譯ガ立會ヒマシタトコロ

先方ハ先ヅ何故砲撃シタカト詰問シマシタ、橋本大佐ハ直チニ中國

兵ヲ滿載シテ居ル松船デアルカラ砲撃シタト答ヘマシタ、先方ハ次

ニ何故英國軍艦ヲ砲撃シタカト詰問シマシタ、橋本大佐ハ又直チニ

勝ガ深イ爲英國松デアル事ガ判ラナカツタカラ其ノ告別式ニ立會ヘト

一四 夫レカラ英國艦長ガ、死者一人ヲ出シタカラ其ノ告別式ニ立會ヘト

申シマシタノデ、我方ハ公官堂ニ於ケル告別式ニ一名ヲ立會ハセマ

シタ

一五 其ノ英國軍艦ガレデーバード號デアリマス、右レデーバード號事件

ハ其ノ後外交交渉ニ移ツタトノ事デアリマスガ詳シイ事ハ知りマセ

ス

一六 橋本大佐及ビ橋本部隊ハ米國船パネ一號擊沈事件ニハ少シモ關係アリマセヌ、私等橋本部隊ノ者ハパネ一號ヲ見タ事モアリマセヌ

一七 橋本部隊ハ南京カラ十四、五里離レタ蕪湖ニ停マリ南京陥落後、間モナク杭州ニ轉進ヲ命ゼラレマシタノデ南京ヲ攻撃シタ事ハアリマセヌ、又南京ヤ其ノ附近ニ行ツタ事モアリマセヌ

一八 橋本部隊ハ漢口ヲ攻撃シタ事ハアリマセヌ、又漢口ヤ其ノ附近ニ行ツタ事モアリマセヌ

一九 橋本部隊ハ廣東ヲ攻撃シタ事ハアリマセヌ、又廣東ヤ其ノ附近ニ行ツタ事モアリマセヌ

昭和二十二年（一九四七年）一月十一日於

東京都世田谷區上北澤町三丁目八七七番地林邊郵方

供 送 者 小 幡 實

右ハ當立會人ノ面前ニテ宣誓シ且ツ署名捺印シタルコトヲ

證明シマス

同日於同所

立 會 人 林 邊 郵 郎

Def.Doc.# 1361

宣
誓
書

良心ニ從ヒ眞實ヲ述ベ何事ヲモ誤認セズ又何事ヲモ附加セザルコトヲ誓フ

小

橋

實